

プレスリリース
PRESS RELEASE
2020/11/30

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

L I S T E N I N G : R E S O N A N T W O R L D S

NOMURA Makoto, ONDA Aki, Angelica MESITI, WANG Hong-Kai,
KOMORI Haruka + SEO Natsumi, Sung TIEU

OPEN HOURS: 10:00 - 19:00 entry up to 30 minutes before closing

Closed on Wednesday and between December 28th (MON.), 2020 to January 4th (MON.), 2021

ADMISSION: Adult 500 (300) yen, University students and Over 65 years old 300 yen.

Fare in brackets are rates for group of 10 or more.

Free for High school students and under, those with physical disability certificate, plus one caregiver.

Free entrance January 9th (SAT), 2021, due to City Festival.



WILD OF THE SANDS TIME AT
MEMORY OF PLACE: ARANNESSIS
同時開催
場所の記憶
想起する力
2020年10月22日 [木] → 2021年3月21日 [日]
企画者: 伊藤智恵子 監修: アキオ・津田 演出: 山崎謙之介
MAEBASHI CINEMA HOUSE, 100-1000 Maebashi, 350-0000 Maebashi, GUNMA Prefecture, Japan
入場無料
(1000 yen)

聴< 共鳴する世界

2020年12月12日 [土] → 2021年3月21日 [日] アーツ前橋
野村誠 / 恩田晃 / アンジェリカ・メシティ / ワン・ホンカイ / 小森はるか + 瀬尾夏美 / スン・テウ

開館時間: 10時~18時 (入場は17時30分まで)

休館日: 水曜日 / 年末年始 (12月28日 [月] → 1月4日 [月])

観覧料: 一般 500円 / 学生・65歳以上・団体 (10名以上) 300円

高校生以下無料 (※小中学生は保護者同伴で入場可。小学生以下は入場料100円)

お問い合わせ: アーツ前橋 / 群馬県前橋市千代田町5-1-16

☎ 027-230-1144 / <http://www.artsmaebashi.jp>



主催: アーツ前橋

助成: 公益財団法人 花王芸術・科学財団 / 財団法人 国家文化芸術基金

協力: 前橋シネマハウス / 東風

後援: 上毛新聞社 / 群馬テレビ / FM GUNMA / まえばしCITYエフエム

前橋商工会議所 / オーストラリア大使館

関連上映プログラム:

奥村雄樹 / 小森はるか + 瀬尾夏美 / 想田和弘 / 坂上香

会場: 前橋シネマハウス 詳細はHP参照 → <http://www.artsmaebashi.jp>

SCREENING PROGRAM:

OKUMURA Yuki, KOMORI Haruka + SEO Natsumi, SODA Kazuhiro, SAKAGAMI Kaori

Venue: MAEBASHI CINEMA HOUSE URL: <http://www.artsmaebashi.jp>

展覧会について

本展は、聴く行為を通して世界と関わる実践を芸術作品によって紹介します。何を、どのように聴いているのかに私たちの意識を向けることで、それまで気づかなかった出来事を再認識させる作品が近年注目されています。こうした関心の背景には、音だけでなく周辺環境を知覚するサウンドスケープや、言語や非言語によるコミュニケーションにおいて聴く態度に関心を向ける芸術や研究の動向があります。それらは表現手法や研究対象を拡張し、これまで周縁的な存在だった対象に眼を向ける人類学や歴史学、あるいは権利要求やケアなど政治や福祉の領域ともむすびつくと考えられます。

聴くことは、まったく異なる、あるいは正反対の出来事を同時に知覚することを可能にし、個人/共同体の記憶を固有のものではなく複数の経験に開き、私たちそれぞれが他の多くの生き物と互いに依存し合う存在であることを認識させるはずです。この展覧会を訪れる人にとって、複数の声が響き合う世界の声に耳を傾けていただく機会になればと願います。

出品作家

出品作家：アンジェリカ・メシティ、野村誠、恩田晃、小森はるか+瀬尾夏美、
ワン・ホンカイ、スン・テウ

関連上映プログラム出品作家：奥村雄樹、小森はるか+瀬尾夏美、想田和弘、坂上香
*会場 前橋シネマハウス（アーツ前橋上3階）

開催概要

【展覧会名】聴くー 共鳴する世界

（英語表記）Listening: Resonant Worlds

【会 期】2020年12月12日（土）～ 2021年3月21日（日）

【開館時間】10:00～18:00（入場は17:30まで）

【休 館 日】水曜日、年末年始 2020年12月28日（月）～ 2021年1月4日（月）

【会 場】アーツ前橋（群馬県前橋市千代田町5-1-16）

【観 覧 料】一般500円／学生・65歳以上・団体（10名以上）300円／高校生以下無料

※ 障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料 ※ 2021年1月9日（土）前橋初市まつりの日は無料

【主 催】アーツ前橋

【助 成】公益財団法人 花王芸術・科学財団、財団法人 國家文化芸術基金會

【協 力】前橋シネマハウス、東風

【後 援】オーストラリア大使館、上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA、
まえばし CITY エフエム、前橋商工会議所

本展の見どころ

- 1) 人の様々な行為のなかで、話すことや演奏することに比べると「聴く」行為に注意が向けられることは少ない。しかし、ジョン・ケージやR・マリー・シェーファーがかつて示したように、聴くことは世界の認識と関わる創造的な行為である。そのように芸術作品における実践に限らず、過去の出来事や人々との関わり合い、日常の生活や習慣のなかにも、どのように、何を聴くかを意識することで創造的な実践を見い出せる。
- 2) 参加アーティストたちは、インタビューやフィールド・レコーディングなどの手法を通して、日々の会話、都市の騒音、過去の記憶、他者のアイデンティティに関与する。鑑賞者は個人や社会を構成する多くの事柄が文字で記されず、「聴く」ことではじめて認識されるという特徴に気づくだろう。
- 3) 同時開催される「場所の記憶」展との連続によって、戦争や災害と関わる作品を複数展示する。2020年に終戦75年を迎えるアジア太平洋戦争については閉館した「あたご歴史資料館」の活動を通し、次の世代がどのように伝承するかを考える。2021年に10年という節目を迎える東日本大震災に関連した照屋勇賢の作品は、開館準備の事業で前橋滞在中に震災に遭遇した経験から制作された。その作品は市民によって共同購入された後、当館に寄贈された。さらに照屋は、東日本大震災のボランティア活動をきっかけに制作活動を開始した瀬尾夏美/小森はるかを支援しているが、彼女たちの作品も本展に出品される。
- 4) 当館の地域アートプロジェクトは、これまで数多くの対話によって実施されてきたが、その中で、お互いの違いを認識しながら共存する方法を探し求めてきた経験は、本展の「聴く」というテーマにもつながるものである。また、同じく地域アートプロジェクトのひとつである滞在制作事業に、2018年に参加したスン・テウが滞在中に制作した音の作品を、市内数か所に設置する予定。さらに、同時開催の「場所の記憶」展も併せて鑑賞することで、これまでの当館の活動とも重ね合わせて観覧いただくことを意図している。

同時開催：

- 【展覧会名】 場所の記憶—想起する力
(英文表記) Memory of Place: Anamnesis
- 【会 期】 2020年10月22日(木)～2021年3月21日(日)
- 【出品作家】 有村真鐵、石内都、伊藤存、岩崎孝、小見辰男、加藤アキラ、金子英彦、木暮伸也、幸田千依、近藤嘉男、白川昌生、津上みゆき、中村一美、福田紹太郎、増田拓史、山口薫
- 【観 覧 料】 無料

関連イベント

① 上映プログラム

日時：2020年12月12日(土)、12月26日(土)、2021年1月30日(土)、3月20日(土)

会場：前橋シネマハウス シアター1(アーツ前橋上3階)

参加費：無料 *要観覧券、事前申し込み不要、先着順

28席限定(新型コロナウイルス感染防止対策のため席数限定)

上映スケジュール：

日程	上映開始	作家・監督	作品名	上映開始	作家・監督	作品名
12月12日	13:00	小森はるか+瀬尾夏美	砂粒をひろう-Kさんの話していたこととさみしさについて	15:30	想田和弘	精神0
			波のした、土のうえ			
12月26日	13:00	奥村雄樹	彼方の男	15:30	坂上香	プリズン・サークル
1月30日	13:00	小森はるか+瀬尾夏美	波のした、土のうえ	15:30	坂上香	プリズン・サークル
			声の辿り-二重のまち-			
3月20日	13:00	奥村雄樹	彼方の男	15:30	想田和弘	精神0

② ギャラリーツアー

館長によるツアー

日時：2021年1月23日(土)

担当学芸員によるツアー

日時：2020年12月19日(土)、2021年2月6日(土) いずれも14:00~15:00

会場：アーツ前橋 1階・地下展示室

参加費：無料 *要観覧券、事前申し込み不要

※ 要事前電話申込 各回先着10名 TEL:027-230-1144

*新型コロナウイルスの感染拡大状況により、中止・変更の可能性がありますので、

当館HPで最新情報をご確認ください。

【新型コロナウイルス感染拡大防止対策について】

— 「聴く展— 共鳴する世界」での取り組み —

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下のような取り組みのもと、本展を開催させていただきます。

★会場にお越しただけない方にも展覧会について知っていただくために、展覧会カタログの役割を果たす本展特設サイトを設けました。

※本展特設サイト展覧会オープン時に開設)については当館HPでご確認ください。

★本展にはQRコードを読み込んで、視聴していただく作品があります。感染防止のため、できる限りスマートフォンおよび、ご自身の有線イヤホンやヘッドホンをご持参ください。

※会場には、ご持参いただけない方のご用意もあります。

★来館に際しての事前の予約は不要ですが、展示室内の観客数を制限させていただきます。

★映画館(前橋シネマハウス)での上映プログラムは、使用する客席を減らし、間隔をあけてご覧いただきます。

内覧会／プレス向けツアー

【期 日】2020年12月11日（金）

【時 間】15:00～18:00（※最終入場時間は17:30）

※ 15:30より出品作家（恩田晃、小森はるか＋瀬尾夏美）、
館長および担当学芸員が作品を紹介します。

※ 要事前電話申込 TEL : 027-230-1144

<お問い合わせ先>

アーツ前橋

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課
担当 堺、小屋（広報担当） 北澤（学芸担当）

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町5-1-16

TEL : 027-230-1144 FAX : 027-232-2016

<http://www.artsmaebashi.jp/>

E-MAIL : artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

広報用画像

【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



キャプション（作家名、作品名、制作年、クレジット）

- 【1】 アンジェリカ・メシティ 《母国語》 2017 年 Photo: Bonnie Elliot
© Angelica Mesiti, Courtesy the artist and Anna Schwartz Gallery
- 【2】 ワン・ホンカイ 《ボロム（風）/済州島、韓国》 2020 年 Photo: Kyung-Duck Kang
- 【3】 恩田晃 《コラージュ・オン・カセット》 2018 年
- 【4】 小森はるか+瀬尾夏美 《声の辿りー二重のまち》 2017 年
- 【5】 奥村雄樹 《彼方の男》 2019 年
Courtesy of MISAKO & ROSEN, Tokyo and LA MAISON DE RENDEZ-VOUS, Brussels
- 【6】 坂上香 《プリズン・サークル》 2019 年 © 2019 Kaori Sakagami
- 【7】 想田和弘 《精神 0》 2020 年 ©2020 Laboratory X, Inc.
- 【8】 野村誠 《ピアノのための9つの小品「アーツ前橋」 1 春の玉川上水》 2013 年
- 【9】 スン・テウ 《一日よりも長く》 2020 年

聴くー 共鳴する世界

広報用画像申込書

アーツ前橋 広報担当宛 FAX 027-232-2016

ご希望の広報用画像の番号に○を付けてください。画像(JPEG)をメールにて送付します。

【1】 【2】 【3】 【4】 【5】 【6】 【7】 【8】 【9】

*本展覧会の広報を目的とする場合に限り、提供いたします。個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合には提供できません。

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください。

掲載誌:

発行日:

発行元:

貴社名:

部署名:

担当者名:

所在地:

TEL:

FAX:

E-MAIL:

◎読者プレゼント用招待券(5組 10名様) ☐希望します ☐希望しません

記事掲載についてお願い

- ・掲載にあたっては、展覧会名称と会期を表記してください。
- ・画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事や放映番組等の記録は、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の際は、必ず事前にお問い合わせください。



交通案内

●公共交通機関

JR 前橋駅から徒歩約 10 分

上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約 5 分

●自動車

関越自動車道 前橋 I.C から車で約 15 分

※地図内 P マークの駐車場のご利用に関しては、駐車券に割引処理いたします。

出品作家略歴

アンジェリカ・メシティ 1976年オーストラリア、シドニー生まれ、シドニーおよびパリ在住
アンジェリカ・メシティは、物語を語る方法や、社会に対する眼差しを身体的なかたちで表現する手段として、パフォーマンスに関心を持ってきた。近年は、言語以外によるコミュニケーション、中でも音と身振りというボキャブラリーを用いて、文化がどのように提示されていくのかをテーマに、ビデオ作品を制作してきた。映画に原型と手法の手掛かりを得ながら、その視覚言語を用いて、対象となる人物への詳細な調査によることを示すため、高められた幻想や反映において、作品が短絡的に解釈されることを回避している。対象を豊かで美学的に扱うことで、各々の正当性における曖昧さや不確定性に価値を見出し、あらゆる人間の変革の可能性を明らかにする。彼女の作品は注目すべき美術館で恒久的にコレクションされ、2019年にはヴェネツィアビエンナーレ・オーストラリア館代表に選出された。

野村 誠 1968年、愛知県生まれ、京都府在住
作曲家、ピアニスト、鍵盤ハーモニカ奏者。小学校2年生から自発的に作曲を始める。1990年、即興演奏をベースに共同作曲するバンド pou-fou を結成。1992年、京都大学理学部卒業。1994年ブリティッシュカウンシルの助成金を得て、渡英。2005年、「横浜トリエンナーレ 2005 アートサーカス [日常からの跳躍]」に参加。2006年、NHK教育テレビの音楽番組「あいのて」を監修。美術家、ダンサーとの共演も多い。1996年、JCC ART AWARD の現代音楽部門最優秀賞受賞。2003年、第1回アサヒビール芸術賞受賞。著書に『音楽の未来を作曲する』（2015年 晶文社）、『老人ホームに音楽がびびく』（2006年、晶文社）、CDに『しょうぎ交響曲の誕生』（2005年 山口情報芸術センター）、『ノムラノピアノ』（2013年 とんつーレコード）などがある。日本相模音楽芸術作曲家協議会理事、日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクター。

恩田晃 1967年奈良県生まれ、茨城県在住
過去30年間に渡って録り溜めたフィールド・レコーディングによるサウンド・ダイアリーを用いたプロジェクト「カセット・メモリーズ」で知られ、＜記憶＞にまつわる作曲・美術作品を制作してきた。ジャンルを越境し、美術、映像、音楽、パフォーマンスの分野で国際的に活躍。マイケル・スノウ、ケン・ジェイコブス、ラハ・レイシニャ・ローレン・コナーズ、デイヴィッド・トゥーブ、鈴木昭男らとコラボレーションを継続してきた。ドクメンタ14、ルーブル美術館、ポンピドゥー・センター、ロッテルダム国際映画祭、MoMA、ザ・キッチン、ウォーカー・アート・センターなどで作品を発表。ニューヨークに長年住んでいたが、現在は水戸を拠点にしている。

小森はるか+瀬尾夏美 2011年結成、活動拠点宮城県
映像作家の小森はるか（1989年 静岡県生まれ）と画家で作家の瀬尾夏美（1988年 東京都生まれ）によるアートユニット。2011年3月、ふたりで東日本大震災のボランティアに行ったことをきっかけに活動開始。2012年より3年間、岩手県陸前高田市に暮らしながら制作に取り組む。2015年、土地と協働しながら記録をつくる組織、一般社団法人 NOOK を設立し、仙台に拠点を移す。現在も、風景と人びとのことばの記録を軸に制作と発表を続けながら、対話の場の企画と運営も行う。主な展覧会に「キオクのかたち、キロクのかたち」横浜市民ギャラリー（2017年）、「希望のうたと舞いをつくるー東京スーダラ 2019」生活工房（2020年）、「第12回恵比寿映像祭」東京都写真美術館（2020年）など。巡回展「波のした、土のうえ」は陸前高田や神戸など全国10カ所で開催。

ワン・ホンカイ 台湾、虎尾生まれ、台北在住
ワン・ホンカイのリサーチに基づく実践は、生きた経験や力、そして「聴く」という行為が交わることで、植民地的、ディアスポラ的な遭遇によって失われた、知の政治に向き合うものである。音の社会性について実験的な方法を用いる彼女の作品は、多くの学問領域にわたるもので、欲望の生産、労働の歴史、共生の経済を批判的に織り交ぜながら、異なる時空へと思考を巡らせている。ソフィア王妃芸術センター（ラジオ）、アジア・アートビエンナーレ 2019、国際舞台芸術ミーティング 2019in 横浜、ニューヨーク彫刻センター、ドクメンタ14、台北ビエンナーレ 2016、Liquid Architecture、ニューヨーク近代美術館など世界各地で発表を行う。第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ台湾館代表作家。

スン・テウ

1987年 ベトナム、ハイズオン生まれ、ベルリンおよびロンドン在住

スン・テウの制作活動は、国境を越えた動向や、グローバルな資本主義、脱物質化された芸術の伝統文化への介入などの交差する場所で行われている。彼女の作品は、歴史的、現代的なものが相互依存する政治権力の構築と、それらが人間の精神に及ぼす影響について考察している。近年の個展に、「What is your |x|?」（2020年、Emalin、ロンドン）、「Zugzwang」（2020年、ハウス・デア・クンスト、ミュンヘン）、「In Cold Print」（2020年、ノッティンガム コンテンポラリー）、グループ展に、「Magical Soup」（2020年、ハンブルガー・バンホフ現代美術館、ベルリン）、「In the Forest, Even the Air Breathes」（2020年、ベルガモ近現代美術館）などがある。2020年にはArs Viva Prize for Visual Artを受賞、工芸美術館（フランクフルト）、クンストフェライン・ハノーファーでの展覧会が予定されている。

奥村雄樹

1978年青森県生まれ、ブリュッセルおよびマーストリヒト在住

翻訳者の特殊な主体性に触発されつつ異なるアーティストたち——しばしば奥村自身を含む——の作品と人生を重ね合わせることで世界の本質的な平行性と意識の本源的な相互連結性を探究している。近年は自身のパーソナリティを極限まで削減しようと試みた60-70年代のコンセプチュアル・アーティストたちの方法論に「私」の究極的な凝縮および拡張の契機を再発見しつつ彼方から響く彼らの声に耳を傾けている。最近の主な展覧会に「Na(me/am)」コンヴェント／ゲント（2018年）、「29771日-2094943歩」ラ・メゾン・デ・ランデヴァー／ブリュッセル（2019年）、「彼方の男、儚い資料体」慶應義塾大学アートセンター／東京（2019年）、「曲折：肉体契約（番外編）」コラボラティブ・カタログ／ジャパン／オンライン（2020年）などがある。

想田和弘

1970年栃木県生まれ、ニューヨーク在住

映画作家。東京大学文学部宗教学・宗教史学科卒。スクール・オブ・ビジュアルアーツ映画学科卒。NHKなどのドキュメンタリー番組を40本以上手がけた後、台本やナレーション、BGM等を排した、自ら「観察映画」と呼ぶドキュメンタリーの方法を提唱・実践。その第1弾『選挙』（2007年）は世界200カ国近くでTV放映され、米国でピーボディ賞を受賞。第2弾『精神』（2008年）は釜山国際映画祭とドバイ国際映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞、マイアミ国際映画祭で審査員特別賞、ニヨン国際ドキュメンタリー映画祭で宗教を超えた審査員賞を獲得するなど、受賞多数。最新作『精神0』は、2020年ベルリン国際映画祭でエキュメニカル審査員賞を受賞した。

坂上香

東京在住

ドキュメンタリー映画監督。NPO法人「out of frame」代表。一橋大学客員准教授。ピッツバーグ大学で社会経済開発学の修士号を取得。南米を放浪した後、帰国。TVドキュメンタリーで「被害者」による死刑廃止運動、犯罪者の更生など、暴力・犯罪に対するオルタナティブな向き合い方を映像化し、ATP賞第1回新人奨励賞を皮切りに、数多くの賞を受賞。2012年からはインディペンデントで制作活動に専念している。『ライフアーズ 終身刑を超えて』（2004年）で、ニューヨーク・国際インディペンデント映画祭、海外ドキュメンタリー部門最優秀賞受賞。「暴力の後はいかに生きるか」をテーマに、「希望」や「成長」に着目した作品をこれからも作り続けていきたいと考える。